

<産業医学実装科学領域について>

指導教員：川波 祥子

産業医学実装科学は、研究から得られた知見やエビデンスを、産業保健分野における疾病予防や健康保持増進のため施策や活動に効果的に実装する方法を研究する領域である。「特論」では、産業医学領域における健康上、労働衛生上の課題と現状を広く学び、疾病予防や健康の保持増進、就業環境の快適化等を目的とした予防介入や改善活動について理解する。また、これらの介入を促進するための体系的アプローチの手法として産業医学実装科学の理論の基礎を学ぶ。「演習」では、抄読会参加や事例検討、討議、研究発表等の演習を通じて、産業医学領域での予防介入や改善活動を計画し行う実践力、研究者としてのプレゼンテーション力、ディスカッション能力を養う。また特論で学んだ産業医学実装科学のプロセスを理解し、上記の介入に取り入れる応用力を身につける。「実習」では、教員の指導の下、具体的な予防介入や改善活動を研究的枠組みで計画、実践する。自らの研究課題を決め、文献調査を行い、関係者と連携して事前準備を行い、データを収集し、結果を討論、評価するという一連のPDCAを通じて、職域への介入や研究の手法を習得する。「論文指導」では、産業医学実装科学の理論と手法を理解した上で、自らの研究課題について計画・立案し、実施する。得られたデータを適切な統計手法により解析し、論文を作成する。研究と論文作成を通じて、今後の産業保健活動において、効果的な予防介入や改善活動を実践する力を身につける。

<産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ>

1. 研究テーマについて

産業医学実装科学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

産業医実務研修センター川波祥子教授が中心となって指導する研究

- 大学院生が所属する企業等の産業保健活動における実装科学研究
- 上司と部下が行う1対1面談の効果の検証と実装に関する研究
- 呼吸用保護具の労働者に与える影響と適切な保護具の選択方法の普及にする研究など

2. 受け入れ要件の目安

一般入学者および週1日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、2年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受入れの目安としています。以下の項目

のうち、2つ以上の項目を満たすこと

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- 想定される疫学的分析手法を理解している、あるいは自己学修意欲が高い。
- 何らかの学术论文を執筆した経験がある。

問い合わせ先：産業医実務研修センター代表メールアドレス
j-knsy3f@mbox.med.uoeh-u.ac.jp